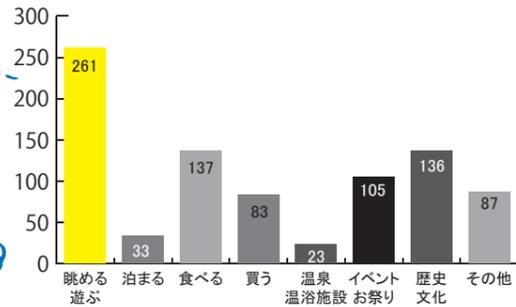


387 通のアイデアありがとうございました

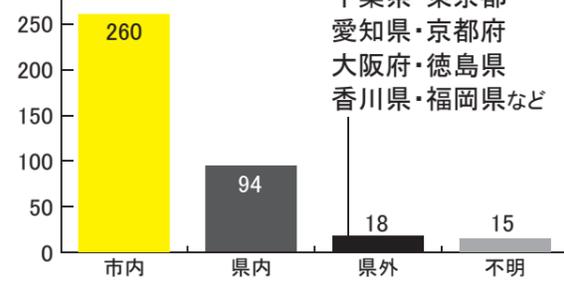
平成26年2月1日から3月7日の間に開催したコンテストに、387通のアイデアが寄せられました。県内外から寄せられたたくさんのアイデアに三宝山活用の可能性を感じました。3月下旬に審査を行い、未来性があり、実現の可能性がある優秀賞10点・特別賞1点が選ばれました。応募作品につきましては、第2弾で取り組んだ香南市三宝山観光拠点化基本構想の参考にさせていただきました。

第1弾 香南市三宝山 夢アイデア コンテスト

■応募内容ジャンルグラフ (数値:通)
※複数の内容が書かれている場合は、複数チェックをしています



■応募地域グラフ



かつて、三宝山の頂上は遊園地や西洋の古城風の展示施設などがあり、多くの家族連れなどで賑わっていました。遊園地は平成9年に閉園し、現在、頂上は閉鎖されていますが、依然として市のシンボリックな場所として人気があり、その活用を望む声は絶えません。

▲画像提供：香南ケーブルテレビ

「香南市三宝山観光拠点化基本構想検討委員会」での検討

平成26年4月15日から6月30日の期間、企業や業者に、三宝山の頂上にある西洋の城「シャトー三宝山」を活かした魅力ある空間をつくる夢のあるアイデアを公募し、一次二次審査を経て、選定された1社と香南市三宝山観光拠点化基本構想検討委員会で基本構想を作成しました。



第2弾 香南市三宝山 観光拠点化 基本構想

〈整備に向けた考え方〉

1. 目標

- 三宝山周辺～市域～高知県域～広域圏を含めた観光拠点を目指す
⇒周辺観光施設・地域産業との連携がポイント

2. 取り組みの視点

- 広域的な観光拠点とするには、三宝山のみでなく香南市全域での取り組みが必要
- 基盤整備や産業活動、生活環境整備等のトータルな取り組みによる「まちづくり」が必要
- 知名度を高めるため、「物語性」のある情報発信が必要
⇒地域の魅力を掘り起こした「体験型・参加型ツーリズム」をまち全体として構築

3. 三宝山観光拠点化

- 三宝山の特徴(観光資源)は「シャトー三宝山」と「すばらしい展望」であり、シャトー三宝山は市民(県民)が保存や活用を望む施設
- 県外の観光客に対しては、交通条件や知名度の低さが弱み
- 三宝山の位置付けは、体験型・参加型ツーリズムの「シンボル」



三宝山の活用について、県と市と地権者である高知新聞社の三者が中心となつて、平成25年度から今日まで本格的に検討を重ねてきました。

平成25年度の第1弾「夢のアイデア募集」から、平成26年度の第2弾「三宝山での構想案」、そして平成27年度には第3弾「構想案を更に磨き上げる検討」が行われました。

この紙面では、これまでの経過の抜粋と今年度取り組む第4弾「基本計画策定」について紹介します。



「香南百貨店おひろめ市」



一問い合わせー
地域支援課 ☎57-8503

三宝山の夢のアイデアから「実現」へ向けて

こうした考え方などをもとに、3案をとりまとめ